

<CLIC>

ACSYSを改組する問題は、着実に進展しているようであった。その名称は、Climate and Cryosphere (CLIC) ということになった。

<人事及び次期の開催地>

多くの委員は、任期の期限が切れ、延長されたので、正式には、議長などが決まっていなかった。そこで、形式的であるが、議長を選び、Gatesが2年間議長を、Pollardが副議長、役員として、Ding, Hoskins, Lemkeの3人が選ばれた。また、Grasslの本年10月での辞職が承認された。これから、正式に公募が行われ、「4月中には決めたい」とのことであった。

また、来年のJSCは、アジア地域で開きたい、ということ、東京で開催することになった。最後には、予算の話になり、Rogerが「金が無い、金が無い。少しは、自分の予算を使ってくれないか」と言ったら、Susanが、「学会などはfunだから自分の研究費を使うが、JSCなどは義務だからそちらで面倒みるべきだ」と反論した。たしかに、「みるべき」ではあるが、「金は有限である」。とにかく、拡大は簡単であるが、収縮は結構しんどいことになる。いつまでも気候に金が来るわけでもない、あまり、間口を大きくしないようにする必要があろう。

「国際レーザセンシングシンポジウム」のお知らせ

—第20回レーザセンシングシンポジウム—

日時：平成11年9月6日(月)～8日(水)、3日間

会場：福井商工会議所(福井市西木田2-8-1)

主催：レーザレダ研究会、福井大学地域共同研究センター

共催：UNESCO、日本学術振興会、日本気象学会他

プログラム：

(1) 招待講演：「次世代の高度レーザセンシング技術」

・「大気のレーザ三次元画像計測技術」

E. Eloranta (米国 Wisconsin 大学)

・「風ベクトル分布計測コヒーレントライダー」

M. Hardesty (米国 NOAA)

・「NASA 衛星搭載観測センシング計画」

E. Browel (米国 NASA Langley)

・「日本の地球観測衛星レーザセンサ ELISE」等

(2) 特別セミナー：「レーザとセンシング技術の未来と企業化」

・「固体レーザとフォトニクス技術の未来」

R. Byer (米国 Stanford 大学)

・「CTI社におけるドップラーライダー」他

M. Huffaker (米国 CTI 社)

(3) セミナー：「アジア各国のライダー研究開発の現状」

(4) 一般講演：最新のシステム技術、観測データの発表

発表申込締切：1999年7月1日(木)

英文アブストラクト提出のこと(A4, 2ページ)

参加申込締切：1999年7月30日(金)

発表・参加申込先：福井大学工学部 川戸 栄

e-mail: kawato@optele.fuee.

fukui-u.ac.jp

FAX: 0776-27-8749

問い合わせ先：福井大学工学部 小林喬郎(実行委員長)

e-mail: kobayasi@optele.fuee.

fukui-u.ac.jp

電話・FAX: 0776-27-8557

ホームページ:

<http://fuee.fukui-u.ac.jp/ilss/>